令和6年の主な出火原因（出火件数 192 件）

原因	件数	主な原因 (R6. 1. 1~12. 31)
①電灯配線	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気工事中に通電中の電気配線が付近の金属に接触したことにより出火した。 ・ テーブルタップの電源コードが短絡して出火した。 ・ 碍子引き配線の配線被覆が経年劣化等により芯線が露出し、発熱しているところへ埃が付着して着火し出火したものと推定。 ・ テーブルタップをたこ足配線で使用したことにより、配線が発熱し火災につながったもの。 ・ 電源コードをねじり接続したことにより、接触抵抗が増加し接続部が発熱して火災につながったもの。 ・ 延長コードが家具でつぶされたことにより、絶縁劣化し短絡して火災につながったもの。
②電気機器	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 扇風機の劣化により、電線が短絡し異常発熱により出火した。 ・ 附属品と異なる充電用アダプターを使用したことで、過充電となり、モバイルバッテリーが出火した。 ・ リチウムイオン電池が何らかの原因によりセパレータが絶縁劣化し内部短絡を起こし熱暴走したことにより火災に至ったものと推定。 ・ リチウムイオン電池が内部短絡したことにより、火災につながったもの。 ・ 電子レンジで食品の包装材を誤って加熱したことにより、火災につながったもの。 ・ ハロゲンライトに可燃物が接触したことにより、火災につながったもの。
③ストーブ	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストーブの近くに放置されていた殺虫スプレー缶が過熱されたことで破裂し、出火した。 ・ 船舶の甲板上でストーブ（ドラム缶）で網やロープの端を燃やしており、消火不十分で周囲の可燃物に延焼したもの。 ・ 薪ストーブの輻射熱が内壁に蓄積されて出火した。 ・ 電気ストーブに布団が触れて出火した。 ・ 電気ストーブが倒れて出火した。 ・ 反射式ストーブの付近でスプレー缶を噴射したところ、反射式ストーブの炎に引火し、周囲へ延焼拡大したものと推定。 ・ サウナ用薪ストーブの断熱材と内壁板張りの間際にて、輻射熱が蓄熱し木製の板張りが多孔質化し、低温で発火し延焼したものと推定。 ・ 石油ストーブの天板上に衣類が接触したことにより、火災につながったもの。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気ストーブのガードに布団が接触したことにより、火災につながったもの。 ・ 作業服の汚れを落とすため、作業服に溶剤（スプレー）を振りかけ石油ストーブに近づいたことにより、溶剤に引火して火災につながったもの。
④放火	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内ゴミ置き場に放火されたことにより、火災につながったもの。 ・ 屋外に置いてある廃棄物に放火されたことにより、火災につながったもの。 ・ 使用されていない建物の玄関扉に放火されたことにより、火災につながったもの。
⑤こんろ	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ こんろのスイッチを切ったつもりが、勘違いによりスイッチを入れてしまい、鍋の油が過熱され出火した。 ・ 故障により使用しなくなった IH クッキングヒーターのブレーカーを遮断しないまま、IH 上で置き型 IH コンロを常時使用していたため、鍋からの吹きこぼれによる水分や油、埃等が IH 内部の電源基盤に滴下、付着したことによりトラッキング現象が発生し、ラジエントヒーター「入」の導電路が形成されラジエントヒーターが加熱され、上部に置かれていた置き型 IH コンロの底面を焼損したもの。 ・ 調整器を取り外したところ、容器のバルブが完全に閉まっておらず可燃性ガスが噴出し、近くで使用中のガスコンロの火に引火し出火した。 ・ フライパンにサラダ油を入れ、ガステーブルで加熱したままその場を離れた間に油が過熱し、出火したもの。 ・ 業務用電磁調理器の安全装置（温度計）を設定せず油を加熱したことにより、火災につながったもの。